

2023年3月期

## 決算説明会 連結

株式会社フコク(東証プライム:5185)  
2023年5月23日

### ゴムからはじまる 未来がひろがる

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った  
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ  
今までに無い価値を提案していきます

Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

本日は、お忙しい中、株式会社フコクの2023年3月期決算説明会をご視聴いただき、誠にありがとうございます。社長の小川でございます。

日頃よりフコク製品をご愛顧いただいている世界中のお客様、私たちの企業活動を支えていただいている株主の皆様、仕入先の皆様に深く感謝申し上げます。

はじめに、私から、先週公表しました6月28日以降の経営体制の変更について、簡単にお話させていただいた後、大城から、2023年3月期の決算について説明させていただきたいと思っております。

新体制の狙いを申し上げますと、「従来以上の、より高い経営目標達成を目指して、再出発をするため」と言う事になろうかと思っております。



遡ること4年前の2019年6月、それまでの右肩下りの業績に歯止めをかけるべく経営改革に着手しました。2019年末までに、国内外子会社改革の方向性を打ち出し、2020年初からは本社改革を着手し始めた矢先に、世界的な新型コロナウイルス感染爆発により、コロナ対応を優先せざるを得ない状況に追い込まれました。

そんな中、2020年2月には東証プライム市場残留基準が示されましたが、当時のフコクにとっては、条件クリアは非常に難しく、新たな課題に直面することになってしまいました。2020年6月の社長就任直後、これらの困難をバネに、攻めの中期経営計画を作成する作業を開始しましたが、当時はコロナ対応最優先で、生き残るための施策に追われ、中計公表は2021年2月まで遅れてしまいました。

こんな背景の下に作成された現中期計画は、一言で言うと、「経営体質強化」計画だと考えています。その後も大きな外部環境変化に見舞われ、中計目標値の達成は困難を極めておりますが、生き残る為の体質強化はできてきたと考えています。

しかしながら、世界的な外部環境の変化は大きく、変化の速度も速くなる一方です。このような状況下で、より高い経営目標を達成するため、収益力の更なる向上と、新規分野を含めた事業の真の成長を目指す必要があります。

この4月、東証プライム市場上場維持基準全項目に適合していることが確認できた今、より高い経営目標に立ち向かうため、経営体制を刷新することとしました。

新体制に対し、従来にも増して、皆様からのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Φ FUKOKU 3/30

## Agenda

1. 決算のポイント
2. 2023年3月期実績
3. 2024年3月期業績予想
4. セグメント別・地域別の状況
5. 中期経営計画の進捗
6. プライム市場上場維持基準の適合進捗
7. 株主還元

2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

改めまして、本日はお忙しい中、決算説明会をご視聴いただきまして誠にありがとうございます。株式会社フコク副社長の大城でございます。

本日は、御覧の通り、決算のポイントを簡単にご説明した後、2023年3月期の通期実績、2024年3月期の通期業績予想、セグメント・地域別の状況、中期経営計画の進捗状況、プライム市場上場への適合状況、株主還元 の順番にてご説明させていただきます。

## 1. 決算のポイント

## 1. 決算のポイント

### 2023年3月期実績

自動車メーカーの生産調整、原材料費や輸送費、燃料費の上昇等の影響を受けたが、合理化や販売価格への転嫁、円安の影響による円換算時の収益増により **増収・増益**

### 2024年3月期予想

半導体供給不足、ロシア・ウクライナ情勢並びにこれに伴う世界的な為替変動及び物価高騰の影響がしばらく続く一方、新型コロナウイルス感染症の収束による経済活動の復調を想定  
生産工程の合理化、不良低減、変動対応等の更なる採算改善努力の継続により **増収・増益**

### 配当

2023年3月期の期末配当金は23円、中間配当金27円と合わせた年間配当金は50円

2024年3月期の年間配当金予想は55円（前年比+5円）を計画

はじめに決算のポイントですが、2023年3月期は、自動車メーカーの生産調整に加え、原材料費や輸送費、燃料費の上昇等の影響を受けましたが、合理化や販売価格への転嫁、円安の影響による円換算時の収益増により増収増益となりました。

2024年3月期の業績予想につきましては、引き続き外部環境の不透明感が続くことが予想されますが、生産工程の合理化や不良低減、変動対応等の更なる採算改善努力の継続により増収増益を計画しております。

当期の年間配当金は1株当たり50円とさせていただきます。尚、2024年3月期の予想につきましては、連結配当性向30%方針に従いまして、前年差5円増の1株当たり55円を計画しております。

## 2. 2023年3月期実績

## 2. 2023年3月期実績

### 業績概要（連結）

(単位：百万円)

	2022年 3月期	2023年 3月期	増減額	増減率
	実績	実績		
売上高	71,504	<b>82,318</b>	+10,814	+15.1%
営業利益 (売上高対営業利益率)	1,749 (2.4%)	<b>2,010</b> (2.4%)	+261 (+0.0pp)	+14.9%
経常利益 (売上高対経常利益率)	2,522 (3.5%)	<b>3,139</b> (3.8%)	+617 (+0.3pp)	+24.4%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,084 (2.9%)	<b>2,135</b> (2.5%)	+51 (-0.4pp)	+2.4%

※「収益認識に関する会計基準」等を前連結会計年度の期首から適用済み  
 ※pp=パーセンテージポイント

**原材料費高騰等の影響を、合理化・販売価格への転嫁等で吸収し増益**

2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

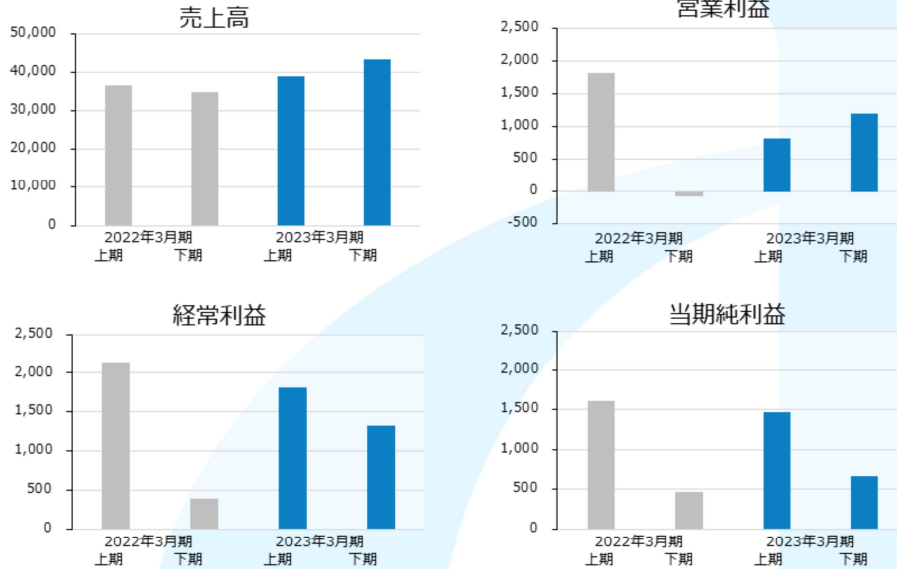
2023年3月期の実績はご覧の通り、売上高は、円換算時の影響約55億円がありましたが、前期差108億円増の823億円と、過去最高の売上高となりました。

また、営業利益、経常利益、当期純利益の各利益段階におきましても、原材料費等の上昇分を合理化や販売価格への転嫁等でリカバーしてきたことで、増益を達成しております。

## 2. 2023年3月期実績

### 経営実績推移 (連結・半期)

(単位: 百万円)



2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、過去2年間の上期・下期の実績を示したものです。

売上高につきましては、2021年度は半導体による車両減産等の影響を受けましたが、今年度に入り、為替等の影響もあり回復基調にあります。

また営業利益につきましては、2021年度上期において、操業度が留保出来たことや2020年度のコロナ禍で取組んで来た体質改善活動が実を結んだことで大きく伸長しましたが、2021年度下期に入り、原材料高騰等の影響を受けまして一時的な営業赤字となりました。しかしながら2022年度に入り、合理化や特に2022年度下期に注力しました販売価格への転嫁が進んだことで、期を追うごとに右肩上がりの利益にて推移しております。

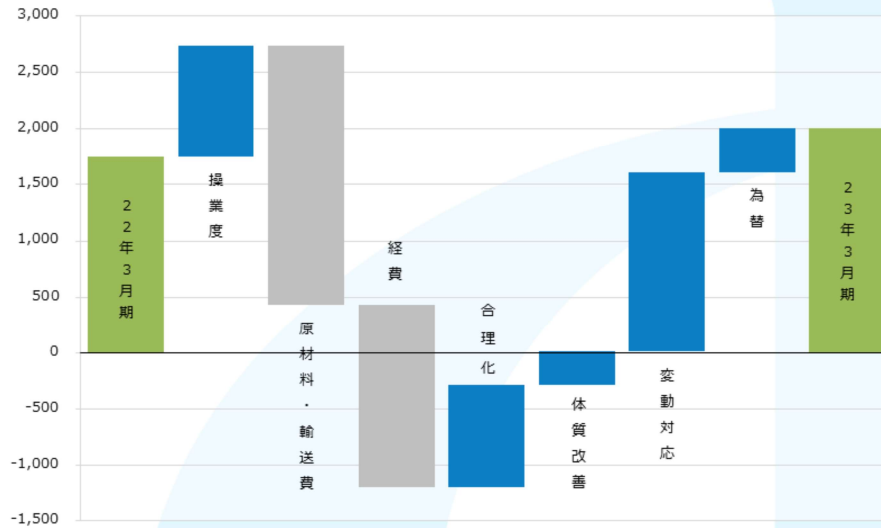
経常利益・当期純利益につきましては、2022年度上期にそれぞれ一過性の利益を計上したことで利益が伸びていますが、その影響を除くとこちらも期を追うごとに利益は伸長しております。



## 2. 2023年3月期実績

差異要因\_連結営業利益（前年比）

（単位：百万円）



2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、連結営業利益の対前年比の増減を要因別に示したものです。

マイナス要因として、原材料費や運賃高騰等の外部環境変化の影響を多く受けましたが、グローバルでの最適地生産や歩留まり向上などの合理化を進めたことで、増益となっております。

## 2. 2023年3月期実績

### 財政状態、キャッシュ・フロー概要（連結）

(単位：百万円)

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	増減額
現金及び預金	9,301	9,972	670
受取債権	17,394	19,731	2,337
棚卸資産	9,605	11,054	1,448
その他流動資産	1,443	1,770	326
<b>流動資産計</b>	<b>37,744</b>	<b>42,528</b>	<b>4,783</b>
有形固定資産	24,753	25,896	1,142
その他固定資産	2,541	3,105	564
<b>固定資産計</b>	<b>27,294</b>	<b>29,001</b>	<b>1,706</b>
<b>資産計</b>	<b>65,039</b>	<b>71,530</b>	<b>6,490</b>
借入金	10,930	12,979	2,049
支払債務	9,926	11,342	1,415
その他流動固定負債	9,805	9,255	△ 549
<b>負債計</b>	<b>30,662</b>	<b>33,577</b>	<b>2,915</b>
<b>株主資本計</b>	<b>31,106</b>	<b>32,534</b>	<b>1,428</b>
非支配持分	2,152	2,333	180
その他	1,117	3,084	1,966
<b>純資産計</b>	<b>34,377</b>	<b>37,952</b>	<b>3,575</b>
<b>負債・純資産計</b>	<b>65,039</b>	<b>71,530</b>	<b>6,490</b>

	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績
税前利益	2,553	3,511
減価償却費	4,369	4,471
売上債権の増(△)減(+)	2,080	△ 1,572
棚卸資産の増(△)減(+)	△ 2,004	△ 876
仕入債務の増(+ )減(△)	△ 329	971
その他	△ 1,325	△ 2,990
<b>営業活動によるCF</b>	<b>5,344</b>	<b>3,515</b>
有形固定資産の取得	△ 2,772	△ 4,103
その他	△ 73	114
<b>投資活動によるCF</b>	<b>△ 2,846</b>	<b>△ 3,988</b>
借入れによる収入	2,150	4,104
借入金の返済による支出	△ 3,512	△ 2,527
その他	△ 1,452	△ 823
<b>財務活動によるCF</b>	<b>△ 2,815</b>	<b>753</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>2,498</b>	<b>△ 473</b>

■ 円安下での為替換算の影響により受取債権、棚卸資産が増加

■ 設備投資により生産合理化を進める

財務体質の状況を、バランスシートとキャッシュフローで見ると、ご覧の通りとなります。

バランスシートは、円安下で総資産が増加していますが、自己資本比率やROA(総資産経常利益率)の指標は前年より良化しております。  
またキャッシュフローは、フリー・キャッシュ・フローがマイナスとなっておりますが、生産合理化のための設備投資を実施したことによるものです。

### 3. 2024年3月期業績予想

続きましてここからは、2024年3月期の業績予想についてご説明いたします。

### 3. 2024年3月期業績予想

#### 業績予想（連結）

(単位：百万円)

	2023年	2024年		増減率
	3月期	3月期	増減額	
	実績	予想		
売上高	82,318	<b>88,000</b>	+5,682	+6.9%
営業利益 (売上高対営業利益率)	2,010 (2.4%)	<b>3,900</b> (4.4%)	+1,890 (+2.0pp)	+94.0%
経常利益 (売上高対経常利益率)	3,139 (3.8%)	<b>4,000</b> (4.5%)	+861 (+0.7pp)	+27.4%
当期純利益 (売上高対当期純利益率)	2,135 (2.5%)	<b>2,900</b> (3.2%)	+765 (+0.8pp)	+35.8%

※pp=パーセンテージポイント

受注回復、生産工程の合理化や原材料価格等の変動対応により、増収・増益を計画

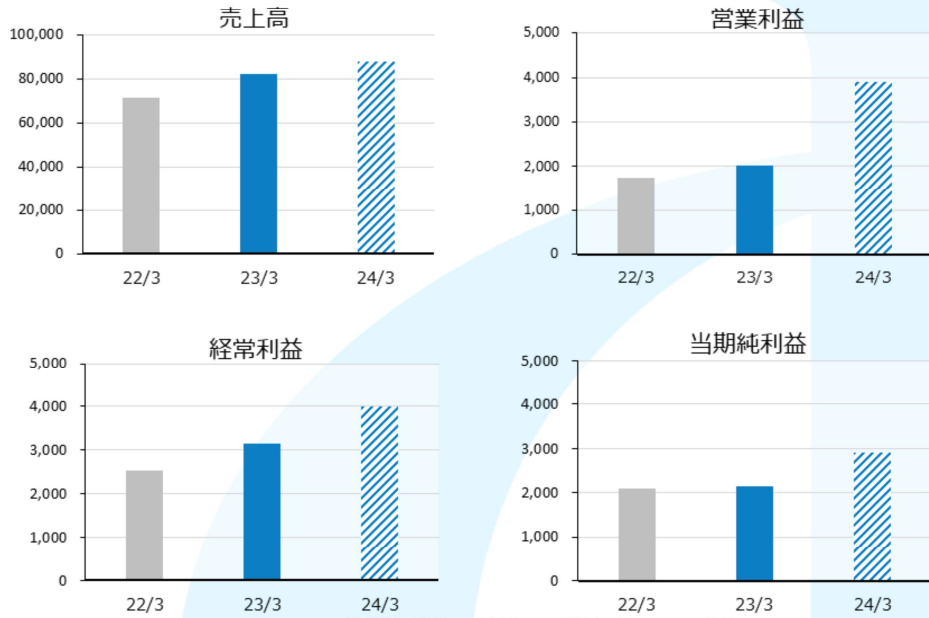
2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

2024年3月期は、外部環境の不透明感が依然として続くものの、受注の回復や合理化、原材料価格等の変動対応活動を進めることで、増収増益を計画しております。

### 3. 2024年3月期業績予想

経営予想推移（連結）

（単位：百万円）



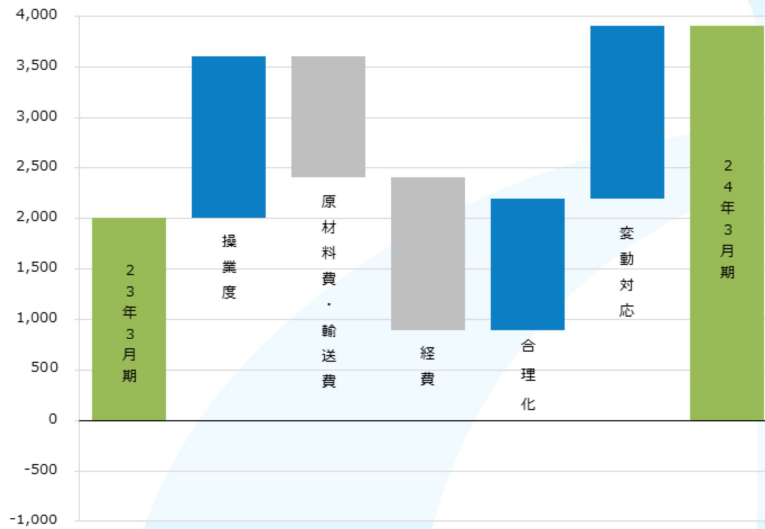
2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、過去3年間の業績推移を表したものであります。  
 ご覧の通り、2024年3月期も増収増益基調を継続してまいります。

### 3. 2024年3月期業績予想

差異要因\_連結営業利益（前年比）

（単位：百万円）

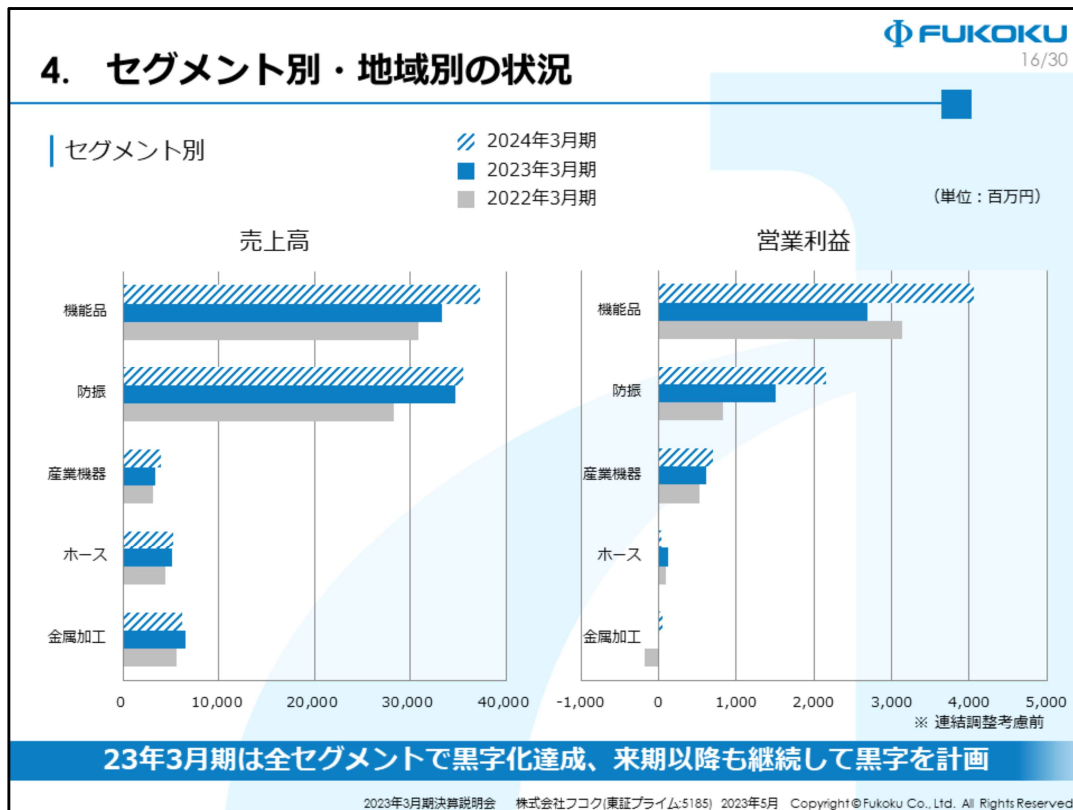


2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

このグラフは、連結営業利益の対前年比の増減を要因別に示したものです。  
2024年3月期は、操業度益を留保した営業利益増を計画しております。

## 4. セグメント別・地域別の状況

次に、セグメント別・地域別の状況について、ご説明いたします。



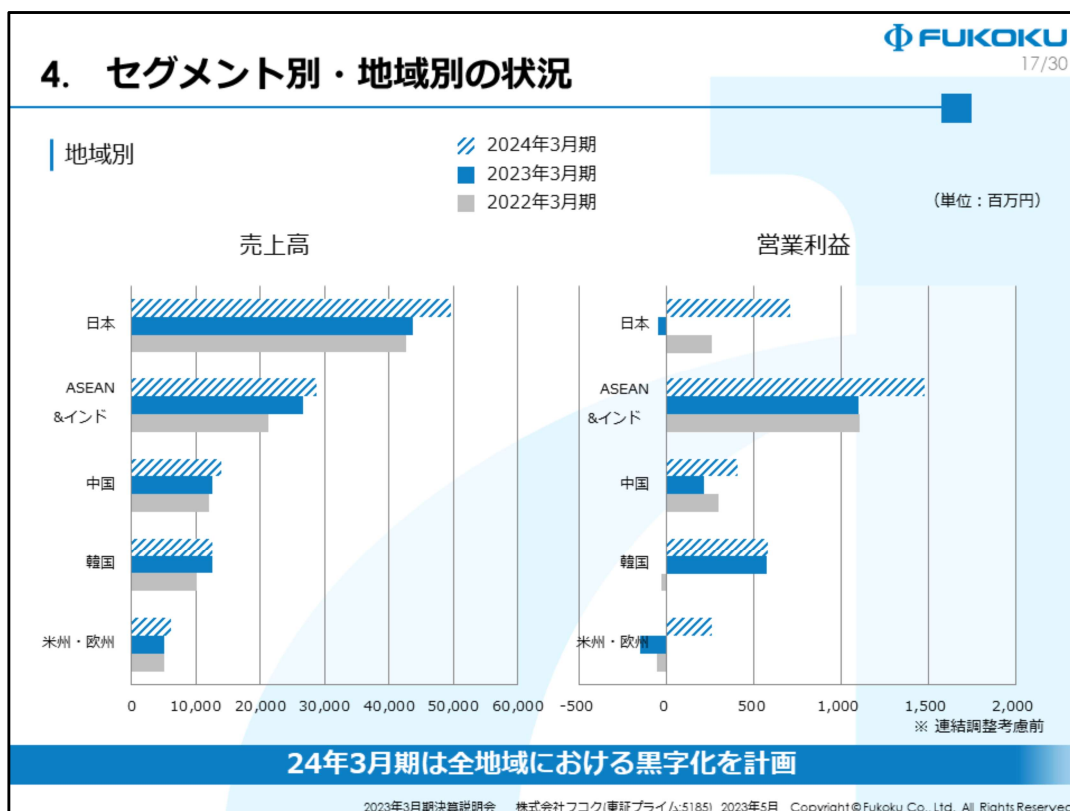
まず、セグメント別の状況です。

このグラフは、2022年3月期及び2023年3月期の実績、そして2024年3月期の計画が、推移としてわかるように表しています。上から順に、機能品・防振・産業機器・ホース・金属加工と、5つのセグメントで構成されています。ご覧の通り、2023年3月期は全てのセグメントにおいて営業利益黒字化を実現いたしました。

特に、当社グループの大きな経営課題でありました金属加工セグメントにおきましては、受注増に加え合理化推進と価格転嫁が功を奏し、4年振りの営業黒字化を実現しております。またホース事業におきましても、受注増により2年連続の営業黒字を達成いたしました。

これら経営課題でありました金属加工事業・ホース事業の両セグメントにおける足場固めが出来たことから、2024年3月期におきましても全セグメントにおいて黒字化を計画しております。





次は、地域別の状況です。セグメント状況と同様に年度ごとの推移で示しています。ご覧の通り、2023年3月期の営業利益は、日本と米州・欧州で黒字化未達となりました。

日本につきましては、原材料高の影響を値上対応でカバー出来ませんでした。2024年3月期では、その値上分が年間ベースで効いてくることや合理化活動を進めることで、利益向上を進めてまいります。

米州・欧州につきましては、2023年3月期にチェコ閉鎖に伴う費用計上がありました。2024年3月期にはその影響がなくなることから、黒字化を見込んでおります。

また、当社グループの重点地域であるアセアン・インド地域におきましては、足許需要が旺盛なインドそしてインドネシアでの売上伸張と共に、メイン拠点であるタイの経営基盤を改めて強化していくことで、更なる利益増を目指してまいります。

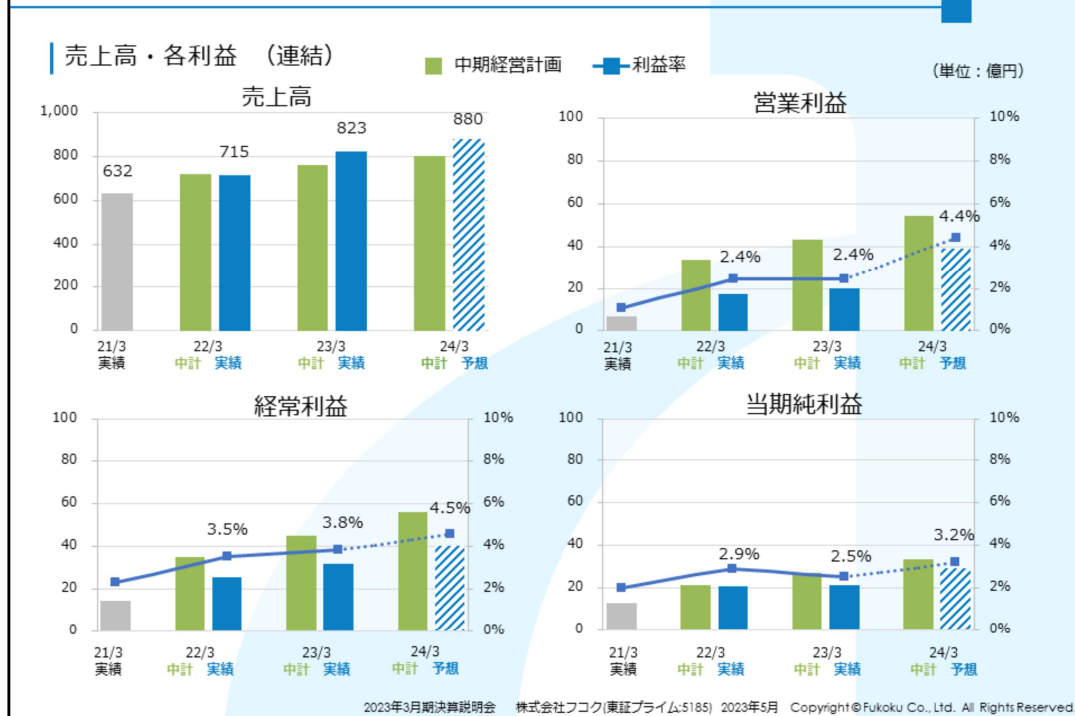
これらのことから、2024年3月期は、全地域での黒字化を達成してまいります。

## 5. 中期経営計画の進捗 (2022年3月期-2024年3月期)

次に、中期経営計画の進捗状況につきましてご説明いたします。

## 5. 中期経営計画の進捗

(2022年3月期-2024年3月期)



まずは数値計画の達成状況です。

中計初年度の2021年度及び2年目の2022年度は、共に売上高はほぼ計画線上で推移したものの、利益面におきましては、計画に対しハインドする形となりました。これは中計策定時に想定していた外部要因と比べまして、半導体不足に伴う車両減産や原材料価格高騰が収益面に影響を与えたことが挙げられます。

本中計最終年度である2023年度におきましても、中計の計画数値には届かない見通しではありますが、時系列的に見ますと、売上・利益面共に総じて右肩上がりでの伸張する計画です。

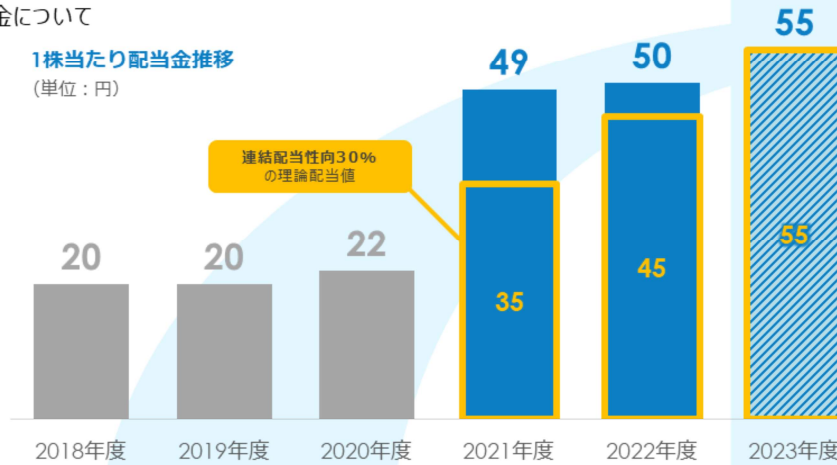
## 5. 中期経営計画の進捗

### 株主還元考え方（配当政策の基本方針）

- **連結配当性向30%** を目安とした安定配当を継続
- 1株当たり年間20円を下限 ※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

### 配当金について

#### 1株当たり配当金推移 (単位：円)



2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

株主の皆様とお約束しました配当金につきましては、これまでも中計の計画数値を上回って推移しているほか、2023年度においても中計にてご提示いたしました金額、1株当たり55円を予定しております。

## 5. 中期経営計画の進捗

### 「深化」と「新化」全体像



- **CASE 対応事業の拡大**
  - バッテリーホールドシートの拡販と新構造の開発
  - バッテリーセルを効率的に冷却「放熱ギャップファイラー」の開発
- **ライフサイエンス事業の創出**
  - 液体培地と化粧品原料の用途開発と安全性を追求
  - 「RaST-TAS」の有識者会議を開催 専門医が本製品普及に協力することで合意
- **ワイパー事業の強靱化**
- **海外事業の選択と集中**

高分子製品（ゴム・樹脂）が生み出すあらゆる機能でクリーンな地球に貢献する

2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

次に、数値目標を達成するために取り組むべき課題を整理しますと、ご覧の通りとなります。既存事業を深掘りし、更なる収益拡大をはかると同時に、将来に渡って世の中の課題にソリューションを提供するための種まきを行う、と言う2つに取り組んでおります。

まず、既存事業の深化については、フコクのコア事業である「ワイパー事業」の強靱化と、海外事業の選択と集中を進めております。

一方、将来に向けた種まきでは、CASE対応事業の拡大と、ライフサイエンス事業創出の2本柱です。CASE対応では、バッテリーホールドシートの拡販と、次世代としての新構造の開発が進行しており、ライフサイエンス事業創出では、バイオ事業の液体培地、化粧品原料や、細菌検査システム「RaST-TAS」の開発が進行しております。

## 5. 中期経営計画の進捗 “新化”

CASE 対応事業の拡大

### 「バッテリーホールドシート」の拡販と新構造の開発

バッテリーセルの膨張収縮を最適な力で拘束することでバッテリーの性能向上に貢献する「バッテリーホールドシート」

TOYOTA「bZ4X」への採用に続き、複数社へ拡販を計画  
さらに、次世代として新構造の開発が進行

### バッテリーセルを効率的に冷却「放熱ギャップファイラー」の開発

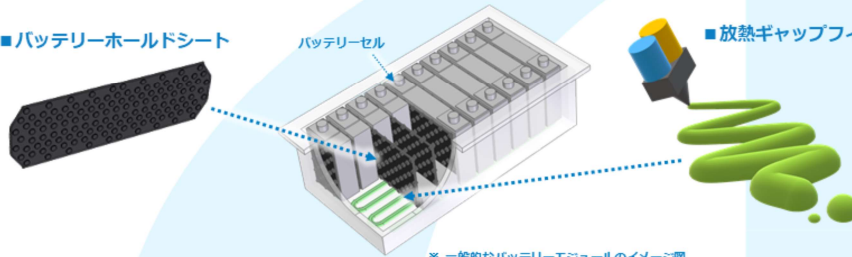
バッテリーセルを効率的に冷却しバッテリー性能向上に貢献する「放熱ギャップファイラー」

従来品よりも低密度で軽量化、塗布加工性にも優れ  
お客様のコスト低減に大きく貢献  
現在、某自動車メーカー様にて評価中

■ バッテリーホールドシート

バッテリーセル

■ 放熱ギャップファイラー



※ 一般的なバッテリーモジュールのイメージ図

次世代電気自動車部品の領域のさらなる拡大

2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

CASE対応事業の拡大は、バッテリーの性能向上に貢献する製品の開発を進めております。

まずは、バッテリーホールドシートです。このゴム製シートは、バッテリーセル間に装着され、バッテリーセルの膨張収縮を最適な力で拘束することでバッテリーの性能向上に貢献いたします。TOYOTA初の電気自動車「bZ4X」への採用に続き、複数の企業様への拡販を計画しており、さらに、次世代として新構造の開発を進めております。

次に、放熱ギャップファイラーです。この放熱ゲルは、バッテリーセルを効率的に冷却することで、バッテリー性能向上に貢献いたします。従来品よりも低密度で軽量化、塗布加工性にも優れているため、お客様のコスト低減に大きく貢献するものと確信しております。現在は、海外の自動車メーカー様にて評価が進行中です。

## 5. 中期経営計画の進捗 “新化”

### ライフサイエンス事業の創出

#### 液体培地と化粧品原料の用途開発と安全性を追求

大学・企業・クリニックとの共同研究により順化培養液の用途開発と安全性の確認を実施

外部機関へ7種の安全性試験を委託し  
全ての試験において安全を確認

ナノレベルまで原材料を微細化できる装置を導入し  
特長がある製品の開発を開始



#### 「RaST-TAS」の有識者会議を開催 専門医が本製品普及に協力することで合意

愛知医科大学教授 三鴨廣繁先生が発起人となり  
アドバイザリーボードミーティングを開催

6名のボードメンバーが  
RaST-TASの臨床での有用性を確認し  
国内における本製品普及に協力することで合意

※感染症分野を牽引する複数の専門医が一堂に会する有識者会議



愛知医科大学教授  
三鴨廣繁先生

ライフサイエンス分野にさらなる力を入れる

2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

ライフサイエンス事業の創出では、特にバイオ事業とRaST-TASの開発に注力しています。

まず、バイオ事業につきましては、液体培地と化粧品原料は、大学・企業・クリニックとの共同研究により順化培養液の用途を開発いたしました。安全性につきましては、外部機関へ7種の安全性試験を委託し、全ての試験において安全を確認しております。ナノレベルまで原材料を微細化できる装置を導入し、特長がある製品の開発を開始いたしました。

次に、RaST-TASは、マイクロ流路チップの特徴を活かした、大阪大学とフコクが共同で開発した世界初の細菌検査システムとなります。感染症分野の第一人者である愛知医科大学教授 三鴨廣繁（みかも ひろしげ）先生が発起人となり、感染症分野を牽引する複数の専門医が一堂に会する有識者会議を開催し、6名のボードメンバーがRaST-TASの臨床での有用性を確認し、国内における本製品普及に協力することで合意いたしました。

今後ともライフサイエンス分野に注力してまいります。

## 5. 中期経営計画の進捗 “深化”

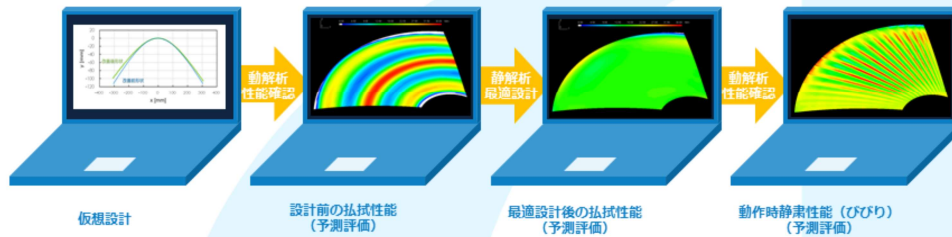
ワイパー事業の強靱化

ワイパー仮想設計ソフト  
「FWIP-SIM」※の性能大幅向上



ワイパー開発のプロセスにおいて仮想設計・評価予測を行う事で  
共創企業にソリューションを提供するシステム「FWIP-SIM」

従来版を高速&高精度版に深化させることで開発期間をさらに大幅短縮  
スピード感が求められるEV開発の競争力を高めるパートナーとして複数の企業様との共創を開始



最適な部品形状・材質を他社よりも速く提供が可能に→更なる拡販の加速

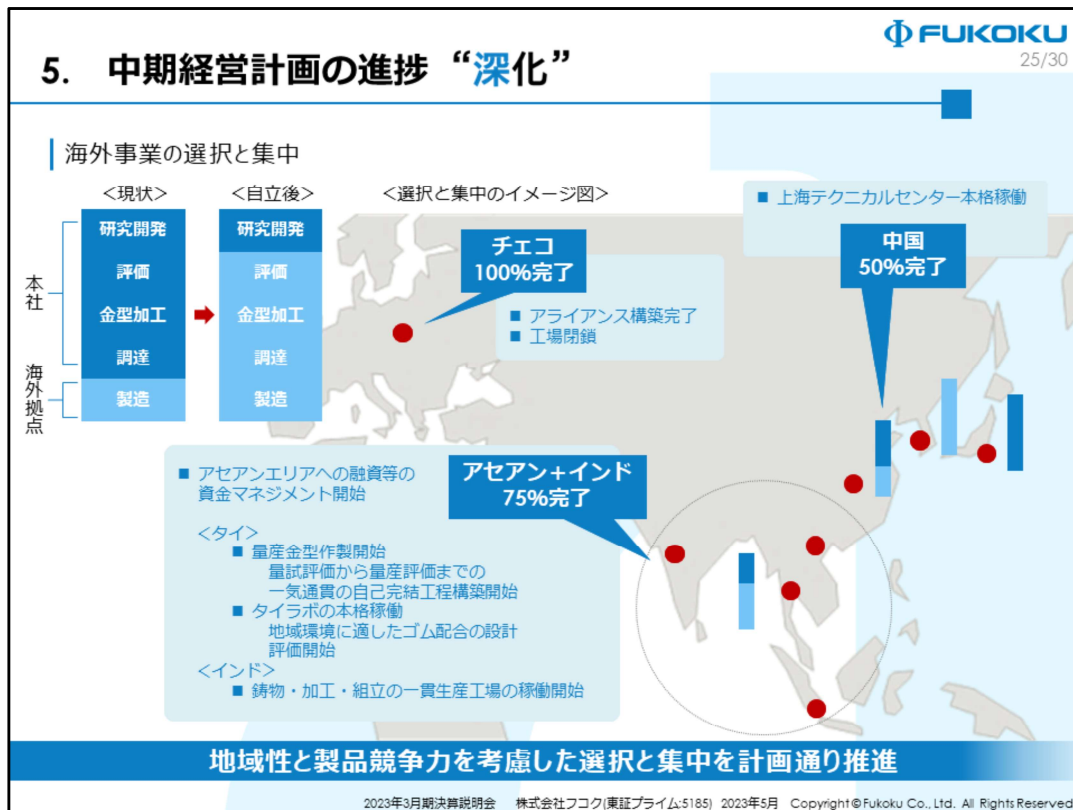
2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

フコクのコア事業であるワイパー事業の強靱化に関する進捗状況です。

拭きの良いワイパーを開発するためには、従来、試作・評価の繰り返しを必要としてきました。

EVの時代、開発期間短縮は最優先課題であり、その要求に応えるため、第一弾としてワイパー仮想設計ソフトを開発いたしました。従来品を高速かつ、高精度版に深化させることで開発期間をさらに大幅短縮することが可能となりました。スピード感が求められるEV開発の競争力を高めるパートナーとして複数の企業様との共創を開始しております。





海外事業の選択と集中による収益拡大については、地域性と、製品競争力を考慮した選択と集中を進めており、今後も市場拡大が予想されるアセアン+インド地域では、現地完結型経営への変革を進めており、エリア本部の設置が完了しました。

また、現地主導で、金型工場増強のための加工設備投資を完了させ、現在は、量試評価から量産評価までの一貫通貫の自己完結工程の構築を開始しております。加えて、タイラボにおいても本格稼働を開始し、地域環境に適したゴム配合の設計を開始しております。

インドでは、鋳物の鋳造から組立まで一貫工場の拡張が完了し、鋳物、加工、組み立ての一貫生産工場の稼働を開始しております。

中国においても、同様のエリア本部を設立し、上海にテクニカルセンターを設立、現在は、本格稼働しております。

一方、競争力のない地域では、現地の競争力ある企業とのアライアンスを活用することにより、お客様へのサービス継続と供給責任を果たし、計画通り、チェコ拠点は22年3月期をもって閉鎖しました。

## 6. プライム市場上場維持基準の適合進捗

続きまして、プライム市場上場維持基準の適合状況について説明させていただきます。

## 6. プライム市場上場維持基準の適合進捗

### 上場維持基準の適合状況

	流通株式数	流通株式時価総額	流通株式比率	1日平均売買代金
<b>基準日</b>	20,000単位以上	100億円以上	35%以上	20百万円以上
<b>2021年 6月30日</b> (東証による移行基準日)	105,134単位	92.9億円 (※1)	59.7%	21.8百万円
<b>2023年 3月31日</b> (当社事業年度末)	113,243単位	117.5億円 (※2)	64.3%	32.3百万円 (※3)

(※1) 2021年4月から6月の日々最終価格の平均値 : 883.7円  
 (※2) 2023年1月から3月の日々最終価格の平均値 : 1,038.5円  
 (※3) 2022年1月から12月の日々売買代金の平均値

今後も企業価値向上に努め PBR1.0倍以上の実現を目指す

2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

既に4月20日に公表させていただきました通り、当社はプライム市場上場維持に必要な基準を全てクリアすることが出来ました。特に当社の課題でありました流通株式時価総額100億円以上につきましては、期間中の株価上昇や金融機関の持合い株解消等による流通株式数の増加が進んだことで、基準を充たすことが出来ました。

今回の条件クリアは、あくまでプライム上場会社としてのスタートラインに立てたもの、と真摯に受け止めまして、今後はPBR1.0倍を目指して更なる企業価値向上に向けたあらゆる施策に取り組んでまいります。

## 7. 株主還元

最後になりますが、株主還元について、ご説明いたします。

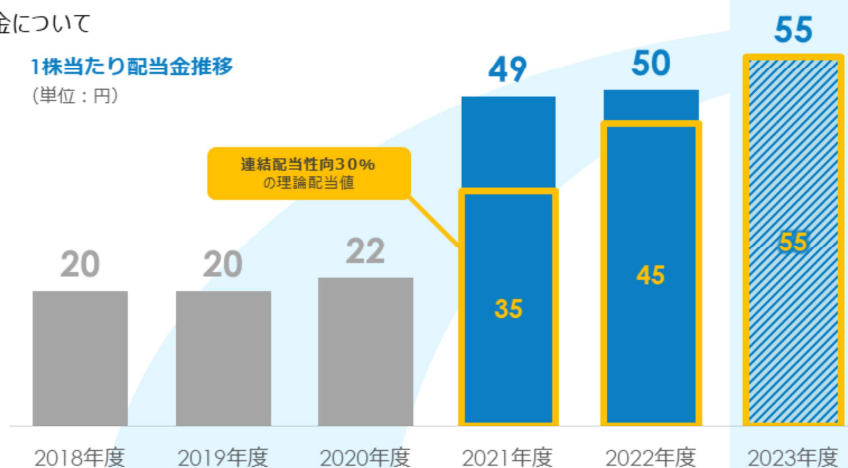
## 7. 株主還元

### 株主還元の考え方（配当政策の基本方針）

- **連結配当性向30%** を目安とした安定配当を継続
- 1株当たり年間20円を下限 ※ 急激な経営環境の変化により著しく業績が低迷するような場合を除く

### 配当金について

#### 1株当たり配当金推移 (単位：円)



2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright © Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

配当政策につきましては、連結配当性向30%を目安に、安定配当を継続することを基本方針と考えております。

これに基づき2023年3月期の年間配当は、中期経営計画策定時から5円増の1株当たり50円といたしました。

また、2024年3月期の年間配当金は、中期経営計画通りの1株当たり55円を計画しております。

クラウド

医療・介護

健康デバイス

太陽光発電

通信

スマートホーム

航空

ドローン

宇宙

風力発電

エネルギー

スマートハイウェイ

フコクは“ソフトマテリアル”で“あったらいいな”を実現していきます!

ライフサイエンス

検査キット

人間補助ロボット

車椅子

ハイパーラール

リニアモーターカー

EV

FCV

スマート農業

スマートビルディング

F.W

2023年3月期決算説明会 株式会社フコク(東証プライム5185) 2023年5月 Copyright©Fukoku Co., Ltd. All Rights Reserved.

決算説明は以上になりますが、最後に重要なお知らせがあります。



**Φ FUKOKU**

**ゴムからはじまる  
未来がひろがる**

株式会社フコクは創業以来の「ものづくり」で培った  
設計・試作・評価・量産のノウハウを集結させ  
今までに無い価値を提案していきます

**注意事項**

- ◆ 本資料には、株式会社フコクおよびそのグループ会社の戦略、経営計画等の将来予測に関する記述を含んでいます。本資料における記述のうち、過去又は現在の事実に関するもの以外は、将来予測に関する記述に該当します。これら将来予測に関する記述は、現時点において入手可能な情報に鑑み株式会社フコクおよびそのグループの仮定および判断に基づくものであり、その性質上、これらにはリスクや不確実性を内在しております。従って、当社を取り巻く事業環境、将来の業績、経営結果等と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。
- ◆ 本資料に記載されている将来予測に関する記述は、本資料作成日現在時点のものであり、当社はそれ以降に判明した新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された情報を最新のものに変更する義務を負うものではありません。

冒頭、小川より説明がありました通り、私は6月28日以降の新しい経営体制への移行に伴い、小川の後任として代表取締役社長に就任する予定であります。重責を担うことに身の引き締まる思いですが、会社の成長・発展に向けて一層の努力を惜しまない覚悟であります。今後とも、ご指導、ご支援を受け賜りますようよろしくお願い申し上げます。

また、我社を取り巻く外部環境の変化は著しく、既存のビジネスモデルを超越した価値創造が求められています。この大きな変化をチャンスととらえ、更なる成長を達成するために、新たなビジョンと戦略を盛り込んだ新中期経営計画の策定に取り組んでおります。6月末を目途に発表する予定ですので、ご期待願います。

以上で、終了させていただきます。本日は誠にありがとうございました。